

## 国際交流会館と私

-楽しさの元-

### 7、李 鍾赫 (イ・ジョンヒョク)

「私にとって大切な社会は何か」と聞かれたとき、すぐ思い出したのは国際交流会館です。今私が住んでいるこの寮は、今まで私が住んでいた場所とはとても違います。初めての一人暮らし、たくさんの隣の人との交流、一階にある多目的ルームのことがそうです。

私が済んでいる国際交流会館B棟は新しくできた建物です。私が住んでいる2階は、8月引っ越してきたときは誰も住んでいませんでした。私が始めて引っ越してきたのです。夏休みだったので一時帰国したり留学が終わって帰ったりして、A棟の部屋もだいたい空いていたので、とても静かで寂しかったです。9月末になって、いよいよ隣の部屋から人の気配が感じられました。私はとても嬉しくてすぐドアを開けて挨拶をしました。その日からどんどん留学生たちが引っ越してきて、いつの間にか国際交流会館は満室になりました。

授業やバイトが終わって寮に帰ってくると、いつも1階の多目的ルームでは留学生たちが料理をしたり、酒を飲んでいたり、テレビを見ていたりします。私はその人たちに挨拶をします。目が合ったのに行き過ぎるのはいやだからです。そしたら、その人たちに誘われて酒を一緒に飲んだり食べたりして、いつの間にか小さなパーティーになります。とても楽しいです。

10月31日は、グループのメンバーたちが私が住んでいる国際交流会館に「散歩」を来ました。来る前は、何をしたらいいのか悩みました。小さい部屋で何をするか、朝なので酒を退く下もできないし、カードゲームでもいようかと思いました。しかし、実際に部屋に入ったら、僕の部屋を紹介したり、韓国の好きな歌手やテレビ番組を紹介することですぐ時間がたちました。前日、友達と自分の部屋で酒を飲んで、片付けずにすぐ寝たのでちょっと散らかっていたのでちょっと恥ずかしかったが、それもそれなりに魅力を発散していました。日当たりもすごく暖かくて、ウーロン茶を飲みながら楽しみました。みんな興味深く私の話を聞いてくれて嬉しかったです。実は1階の多目的ルームも紹介しながら、お酒でも飲みたかったが、それは今度ぜひしたいと思います。

国際交流会館を出て、李さんのバイト先であるベーグル屋さんに行きました。それはALVEの中にもありました。何回も行ったことがあるALVEだったのにこの店は初めて見ました。とてもきれいなお店で親切な店員さんが働いていました。李さんともとても仲良く見えました。お勧めのベーグルはとてもおいしかったです。私もこういうところでバイトして見たいなと思いました。

11月10日は、みんなと千秋公園へ行きました。前日ちょっと寒かったので心配でしたが、当日は少し暖かくてよかったです。もう終わったと思っていた紅葉もすごくきれいに残っていて嬉しかったです。神社にいる猫と遊んだり、立ててある銅像について書かれている文と一緒に読んで見たり、何回も行ったことのある千秋公園が新しく感じられました。

芝生が広がっているベンチで、来る前に買ったお弁当を食べました。いい天気で、人もあまりいない静かな雰囲気のある公園だったのでとても平和的でした。私たちだけ、にぎやかに話をしていました。とても静か過ぎる秋田が私は平和的で好きだけど、一生ここで暮らすのは無理かも知れないといいました。それは競争などが少ないため刺激がないと思うからです。都会だといろいろな人がいてそういう人を見るだけでも感じれるものができるからです。それで刺激がある都会が私はもっと好きだと言いました。でもこの日は、この静かな雰囲気がちょうどよかったです。

その後、授業でグループの人と私の文について話しました。舞さんは「ジョンは、誰でも仲良くできる人だなと、話していて思いました。ジョンの部屋では、ゆったりとした時間をすごしてよかったです。次はお酒ですね！」とコメントおもらいました。自分が住んでいる国際交流会館こ部屋でゆったりとした時間をすごしてとてもよかったですと思います。やはりその暖かい日当たりも一役をしたのではないかと思いました。

李英傑さんからは「そうですか、男の人は刺激やにぎやかなところが好きか。私は秋田の静かさが大好きだ、たぶん一生ここに住んでも大丈夫かも。でも国の人や家族と離れたくないから、やはり帰る」とコメントをもらいました。千秋公園で話したことについて話してくれました。

晴喜は「国際交流会館での楽しい生活が想像できました。僕も人と会ったら出来るだけ声をかけたいと思っているので、あった時はあいさつしましょう。韓国の話をもっと聞かせて下さい！」とコメントをもらいました。国際交流会館での短い時間で、楽しい生活を想像してくれてうれしかったです。もっと本格的に楽しさを見せたいなと思いました。

国際交流会館は、ある人に対してはただの寮かもしれません。例えば、交流せずに部屋に帰ったら自分のことばかりしたり、または忙しくて帰ってきたら寝るだけする人には、そうだと思います。しかし、私は隣の人に興味を持っています。いろんな国からいろんな人が来ているので、どう過ごしているのか知りたくなります。それはたぶん「自分と違う考え方を持っている人」を断るのではなくて、知りたがる私の性格のせいかもしれません。1階の多目的ホールという所でも、ただすれちがうと何もなかったところになると思います。しかし、興味を持って話しかけたり、一緒に何か作ったり食べたりするととても楽しい空間になります。ある日、バイトが終わって帰ってきたら、1階でアメリカとケニヤとオーストラリアの友達がお酒を飲んでいました。僕がドアを開けて「Hello」と言ったら、みんな「一緒に飲んで」って言ってくれました。それでまた新しいパーティーが始まります。好きな音楽の話をしたり、モトカノやモトカレの話をしたり、おいしいお店を発見した話とか楽しく話をします。このように楽しい話をしていると、バイトの疲れはさっと消えます。

後3ヶ月くらいしか残ってない秋田の生活、その中でも国際交流会館での生活はどんなふうに生きていきたいか。最近、寒くなってから少しルーズな生活になったと思います。ここに住んでいる学生たちもあまり部屋から出なくなった気がします。ほかの人も寒いから布団から出づらくなったのではないかと思います。もっと元気出してみんなと楽しみたいなと思います。きっと先に誘うと嬉しがって出てくるはずです。僕も今の時期、誘われると嬉しがって出かけるからです。先に誘う気持ちになかなか出来ない季節だと思います。それと、ベランダのところでみんなと鎌倉も作って見たいです。

私が思う「社会」とは、みんなと楽しく遊べる安定した場所だと思います。実は社会と言われたときはじめに思い出したのは「社会問題」という単語でした。複雑でいろいろなことがおきる乱雑な世界っというイメージです。しかし、国際交流会館という実際にすんでいる、具体的な社会について考えて見ると、実はとても楽しいことが多いところかもしれないと思いました。毎日難しい問題が起きる社会じゃなくて、楽しいことが起きる社会になってほしいなという意味で、社会とは楽しく遊べる安定した場所だと考えて見ました。

自分の考えを文として書くのは難しいと思いました。それを、グループの人たちに見せてもらい、  
修正することが出来たし、もっと具体的な理由を書くって言うことを先生から教えてもらい、もっと  
考えて文を書くことになりました。